東京台東区谷中細幅織物工場操業状況と見本帳などの保存活動について

権上かおる，山﨑範子，菊池京子，真鍋雅信，吉田喜一

第42回産業考古学会総会・研究発表
会場：足尾公民館　（2018年5月27日）

１.千代田リボン操業情報

１－１　既知の情報
１－２　東京府工業統計
１－３　千代田リボン見学記
１－４　工場配置図
１－５　終業時の記録

２．地域産業遺産の保存活動

２－１　社会一般への広報活動
２－２　大学博物館への出展
２－３　行政や地域、社会への広報活動
２－４　専門職への働きかけ

３．これまでの到達点

写真：撮影者の記述のないものは、谷中のこ屋根会メンバー撮影

岩崎・渡辺コレクション

（岩崎 輝弥・渡辺四郎が
カメラマン小川一真を雇い撮影したもの）

渡辺四郎
千代田リボン製織所経営

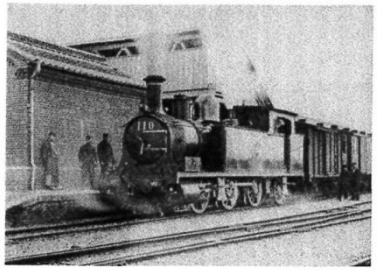


写真7　形式2100（1890年英国製）．明治中後期の代表的機関車で，ほぼ同型の形式2120（英国製），2400（ドイツ製），2500（アメリカ製）などがあり，B6と総称される．日本国内のほか，日露戦争の前線でも多数使用された．交通博物館所蔵・岩崎渡辺コレクション

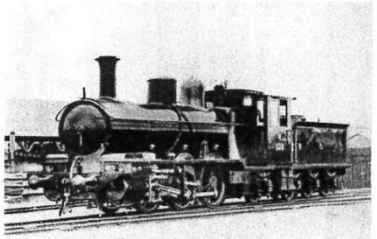


写真9　日本鉄道 322 号機関車（1902 年英国製．国有化後の型式7080）．東北本線で貨物用に使用された．交通博物館所蔵・岩崎渡辺コレクション

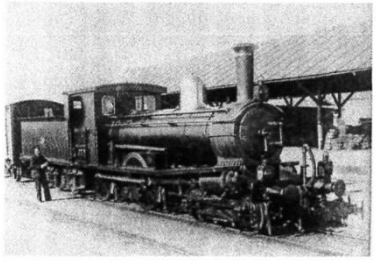


写真8　日本鉄道 179 号．国有化後の形式 5500 で，1893 年から 98 年にかけて英国で作られた同型機の一つ．主に北関東，東北地方で旅客用標準機関車として活躍した．交通博物館所蔵・岩崎渡辺コレクション

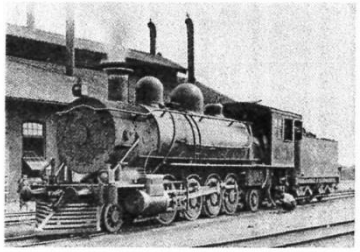
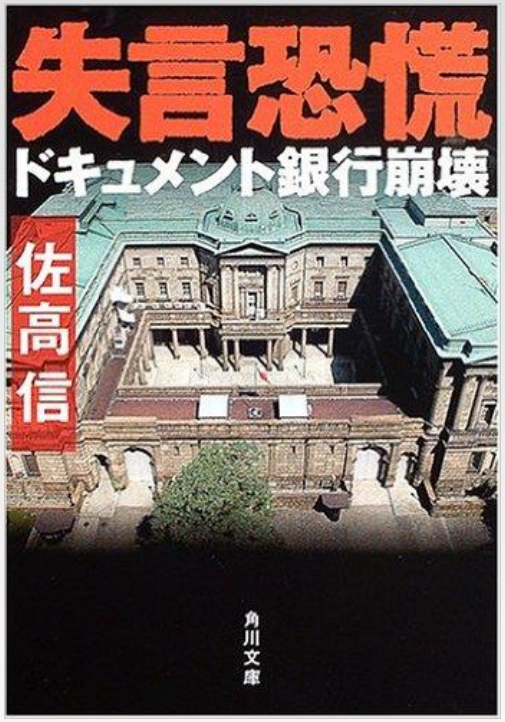


写真 10　日本鉄道 546 号機関車（1897 年米国製で国有化後の型式9700）．先輪 1 軸，動輪 4 軸，従輪 1 軸（1D1）の機関車はミカドと愛称され貨物用として世界中で使われた．日本帝国の鉄道会社の発注者を受けて，米国ボールドウィン社が初めてこの型式を製造した時，ミカドと名付けたことに由来する．交通博物館所蔵・岩崎渡辺コレクション

渡辺四郎父；渡辺治右衛門
1872－1930　明治-昭和時代前期の銀行家

東京第二十七国立銀行,あかぢ銀行などを経営。
大正9年二十七銀行を東京渡辺銀行と改称。関東大震災後,
経営が悪化。
昭和2年3月14日片岡直温蔵相の
衆議院予算委員会での渡辺銀行破綻の
失言を契機に渡辺・あかぢ両銀行は休
業となり,これが金融恐慌の発端となる



1927（昭2年）
工場長の青木道三の仲介で
鈴木哲が買い取り、
千代田リボン製織所名で創業

リボン工場の沿革

・1894年（明治27）　岩橋リボン製織所設立（初めて国産リボンを生産）

・1907年（明治40）　三井系が買収し、東京リボン製織（株）設立
＊技師として渡辺四郎、鈴木哲が入社

・1910年（明治43）　渡辺四郎社長となり、千代田リボン製織（株）設立
＊数年にわたり欧米で織物を視察・研究

・1921年（大正10）　渡辺四郎死去（40歳）　経営は渡辺財閥が継承

・1927年（昭和2）　金融恐慌により渡辺財閥崩壊。鈴木哲が社長となり
千代田リボン製織所設立。

・1966年（昭和41）　リボンの生産終了。工場は旭プロセス製版に譲渡。

・2013年（平成25）　のこぎり屋根工場解体

台東区谷中の明治期からの元リボン工場が2013年解体

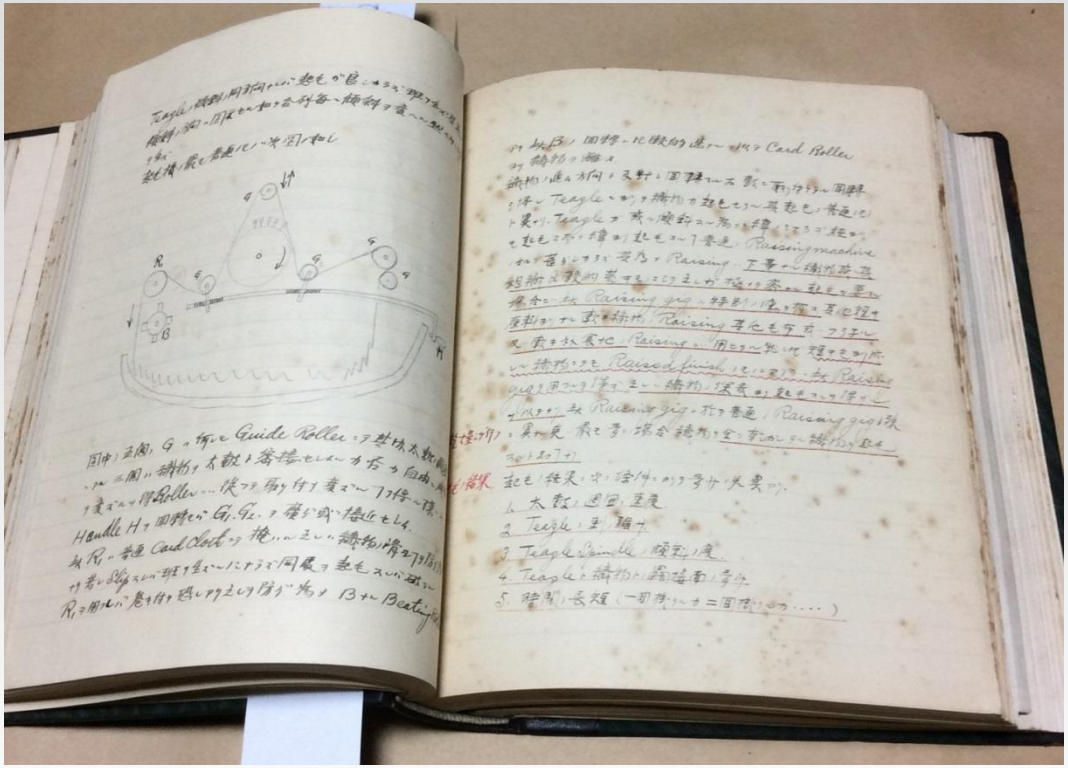
リボン工場の鋸屋根部材
（2連分）
明治期の繊維文献
（洋書）
リボンの見本帖
リボンの商品現品

→

谷中のこ屋根会
に寄贈される

渡辺四郎コレクション

- 講義ノート
- 洋書を中心とした文献
- リボンの見本帳



No.6

渡辺四郎
東京高等工業学校
時代と推定

７３冊の洋書を中心とした繊維産業文献

渡辺四郎旧蔵図書分類集計表

	言語					出版年					合計
	英語	独語	仏語	伊語	日本語	～1907	～1913	～1921	1922～	不明	
ビジネス	3						2			1	3
経済学	1					1					1
機械工学	4						1	1		2	4
繊維	2		1			1	1			1	3
紡績	3					3					3
テキスタイル	5	2	1			2	3	2		1	8
絹			1				1				1
毛織物	1					1					1
染織・捺染	2	1				2	1				3
織物仕上		2				1				1	2
織物設計	5	1	1			2				5	7
機織	5	14		2	3	9	4	2	4	5	24
ジャカード	2	1				2				1	3
ドビー	1						1				1
リボン	1	4	3			1	2			5	8
レース					1				1		1
合計	36	25	7	2	3	25	16	5	5	22	73

◎1907年1月　東京リボン製織株式会社株式募集　（渡辺四郎も株主になったと推測）
◎1907年7月東京高等工業学校卒業
◎1910～1912　欧米を中心に海外視察
◎1912年　or 1913年　帰国
◎1913年　千代田リボン製織株式会社設立
◎1921年　渡辺四郎死去

玉川寛治氏作成

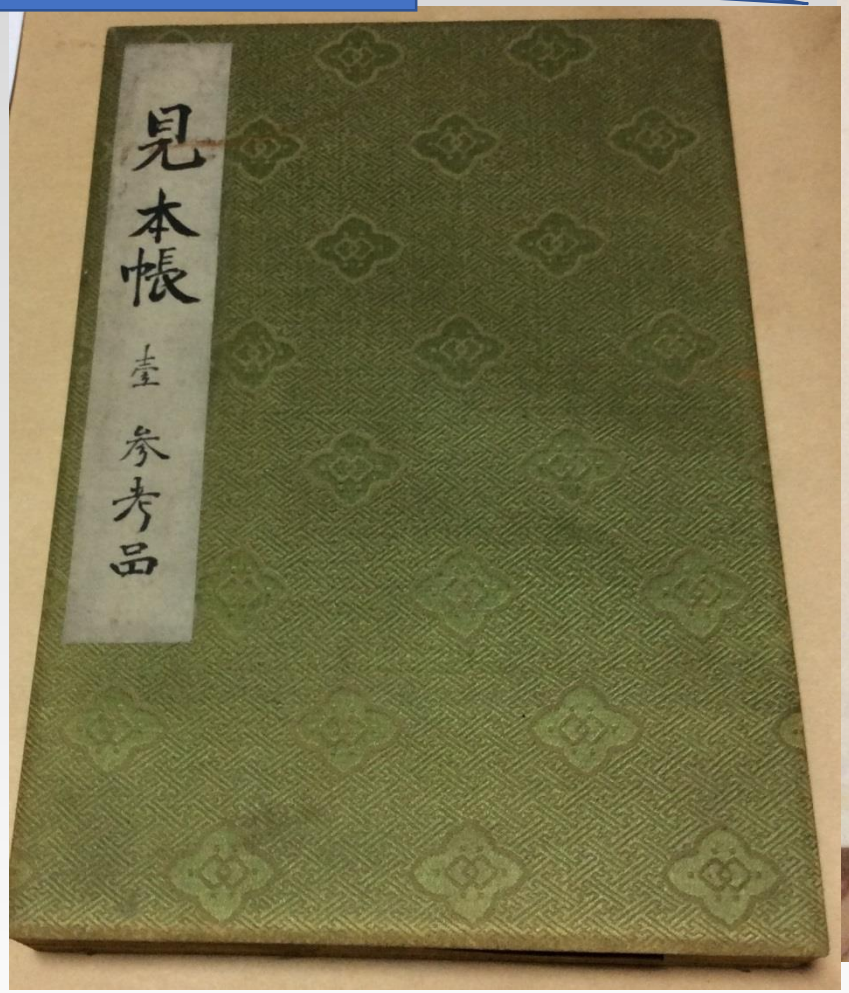
渡辺四郎が収集した原書の技術図書では、個人の収集としては、日本で最大規模のように思われる。

リボン製造業を、日本で立ち上げ成功させようとした、渡辺一族と渡辺四郎の努力の跡を研究することは、日本の産業革命の研究にとって重要な一部分となるに違いないと、考えている。

玉川寛治氏ギャラリートーク資料より

リボンの見本帳 No.16

リボンの見本帳の保存状態も良く、当初の色彩を保っているものも多い



十六
Mail Coach
WE'RE LOSING FAST THE GOOD OLD DAYS
OF RATTLING WHEELS
AND GALLANT GREYS;
WE'RE LOSING FAST THE LUGGAGED ROOF
THE WHISTLING GUARD
AND RINGING HOOF;
THE ENGLISH STAGE
AND HIGH-BRED TEAMS
WILL SOON EXIST BUT IN OUR DREAMS;
AND WHIRLING MAIL
OR STARTLING HORN
NE'ER CHEER THE NIGHT,
NOR ROUSE THE MORN.
AH, WELL-A-DAY! NO CRACKING LASH,
NO CHAFING BIT, NO RESTLESS DASH,
NO "PULL UP" AT THE
"CROSS" OR "CROWN"
'MID ALL THE GOSSIPS OF THE TOWN,
FOR TIME, WITH DEEP
RAILROADED BROW,
CHANGES ALL THINGS
BUT HORSES NOW.
ELIZA COOK.
By permission of W. D. Downey, London
By permission of W. D. Downey, London
He was despised
and rejected of men;
a man of sorrows,
and acquainted
with grief.

B16-05

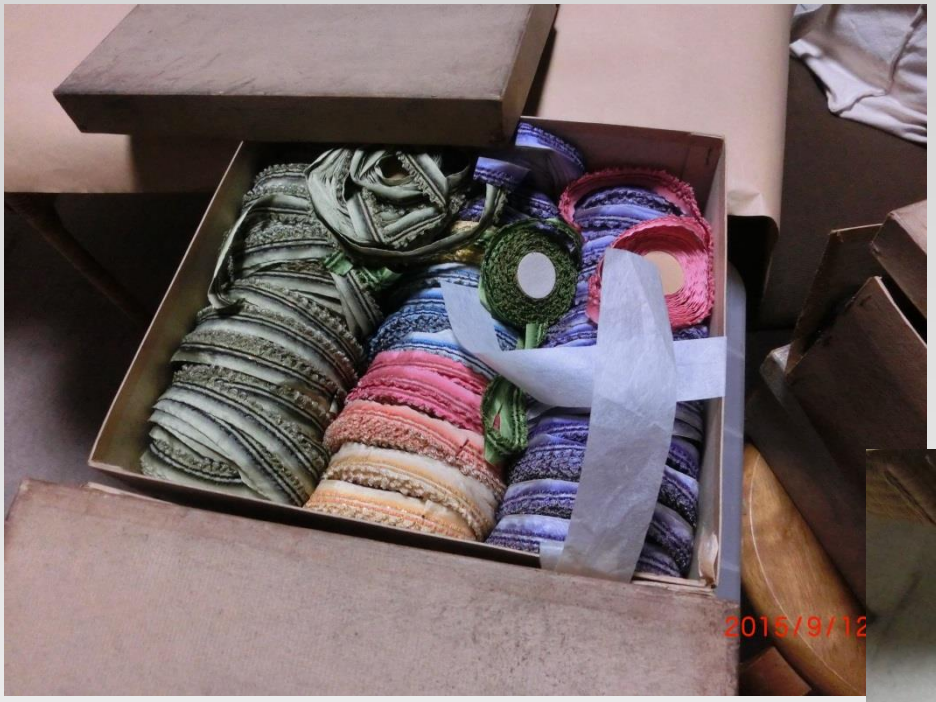
パリ万博の土産品？

当時のリボンは印刷・写真の役割もあった

写真撮影;縣章彦

写真撮影;縣章彦

千代田リボン製織（所）見本帳・商品残



時代は昭和初期と推定

写真撮影;縣章彦

谷中のこ屋根会の目標

- 第２条　（目　的）
- 本会は、東京でも優れた歴史性を持つ谷中の、上野台地と本郷台地に挟まれた低地にあった、明治43年に織物のリボン工場(旭プロセス製版)の解体に際し、近代織物工場の典型であるのこぎり状の屋根構造の部材の一部を保存し、旧谷田川（藍染川）沿いの歴史性を活かした商店や町並みの原資料として、この町での活用を目指すことを目的とする。同時に、文京区・台東区・荒川区などで、歴史ある建物の保存・活用をめざす方々と連携し、開発だけに依らない、暮らして楽しい町への模索と実践を目的とする。

のこぎり屋根の部材や資料について
　①現地での保存・活用（×）　→　②地域での保存・活用
→　③博物資料的保存・活用

「なにより、
東京の中心地での、ものづくり（製造業）の記録を残したい」

１.千代田リボン操業情報

１－１　既知の情報
１－２　東京府工業統計
１－３　千代田リボン見学記
１－４　工場配置図
１－５　終業時の記録

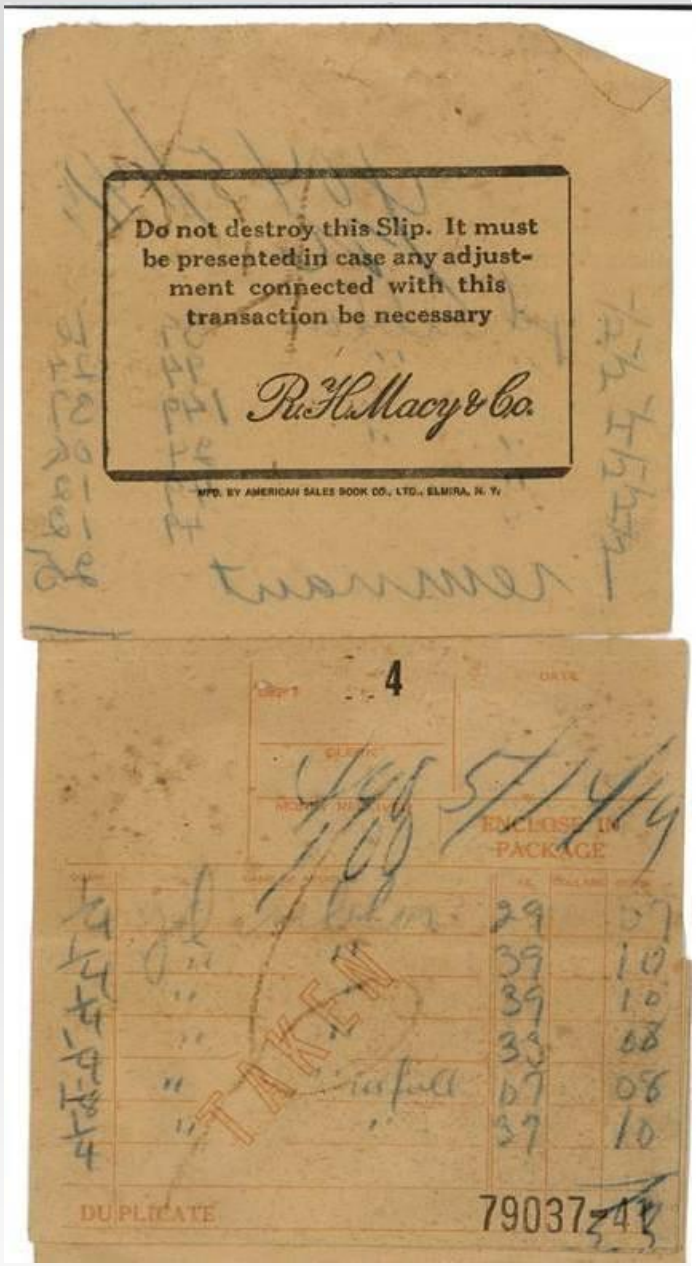
１－１　既知の情報

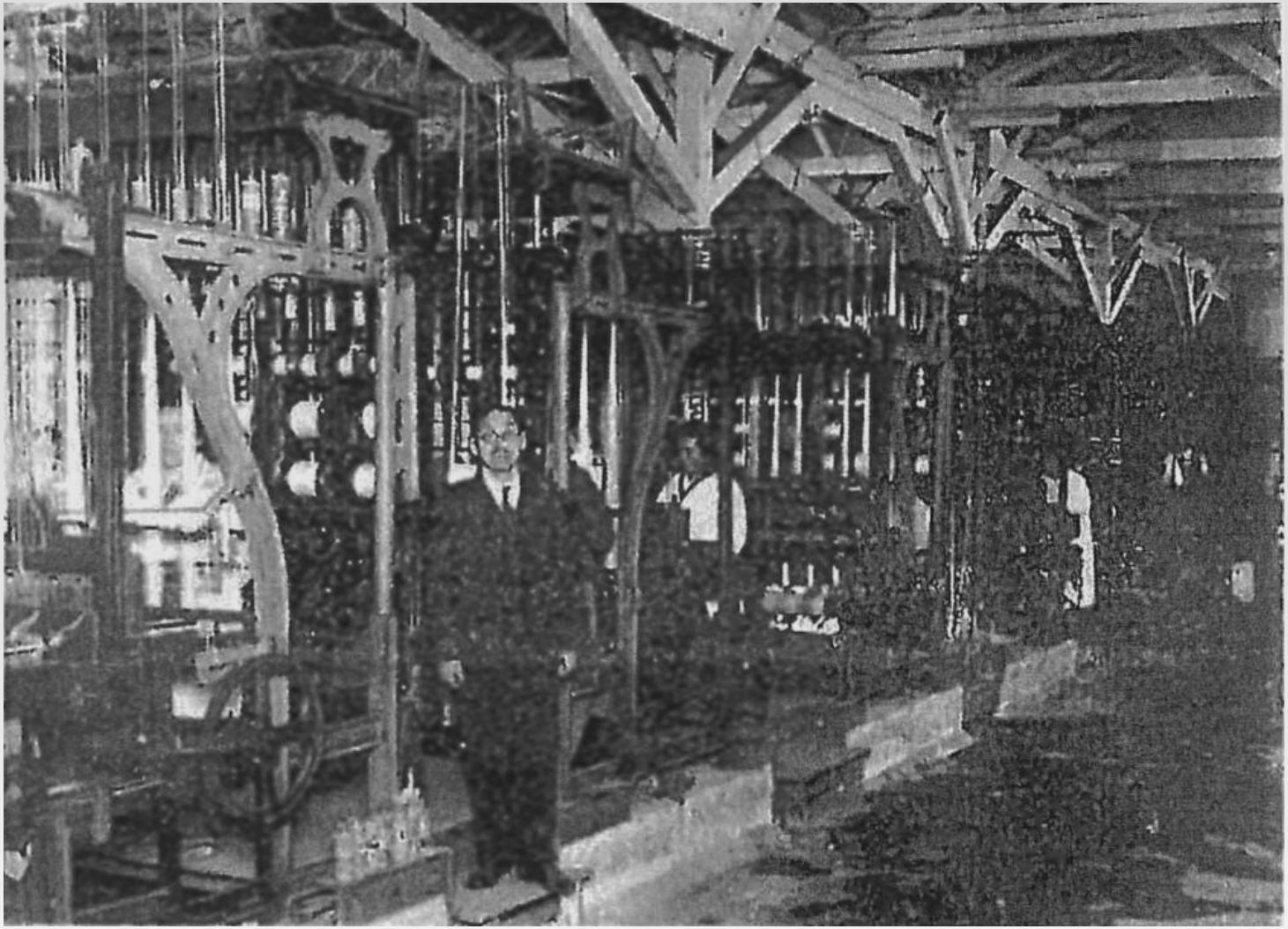
リボン見本帳内のメモやその他文献に記述された工場設備や操業を知るものは、以下程度であった。

- 明治30(1897)年；製織記録で最も古い
- 第十二号機；織機番号の最大（以上見本帳メモ）
- 明治17（1884）年8月岩橋リボンがドイツからの多条式の巨大な力織機14台を輸入。我が国初の動力織機によるリボン製造。製織機は薄いリボンのため特殊な機構を持ち、耳の不揃いを防ぐため、杼はラック（軌道）の歯車仕掛で静かに往復する。緯 (横)糸は、金弓装置の杼のスプリングで伸縮調整。 多条式力織機なため、スチール製機台必須
- 明治34（1901）年ドイツ・ルードルフ社へ複雑な模様髪掛リボンの織れる織機（5,6丁杼）発注

この程度の
伝票

しかも昭和
前期のみ





千代田リボン製織所の一部（昭和初期？）

東京織物製造同業組合編『東京織物製造同業組合沿革史』（東京織物製造同業組合1944 年）

１－２　東京府工業統計

1903 (明治36)年統計のみにリボンの項が存在する。

工場数	生産量 ｸﾞﾛｽ	売　価 円	1ｸﾞﾛｽの平均価格
1	2392	3570	約1.5円

表1　明治36(1903)年のリボン生産量

「私設ノ工場ノ二　リボン工場数１　原動力ヲ用イル、職工など30人」とあり、生産量等は以下である。

約420万個の帽子用と　男性人口の約３０％

表2　リボン工場の賃銭など

単位；銭

明治36年 業種別 賃銭比較	工場数	男		女	
	軒	14歳 以上	14歳 未満	14歳 以上	14歳 未満
莫大小（ﾒﾘﾔｽ）	8	510	290	130	130
毛織物	8	480	260	-	150
リボン	1	460	220	-	130
帽子	3	420	290	-	-
綿糸	4	380	230	-	-
綿織物	9	280	170	-	80
絹織物	32	260	220	70	50

１－３　千代田リボン見学記

以上を簡單に言ひますと。

一、蠶から糸をとる。二、それを枠に卷く。

三、リボンの必要な巾に並べる。四、織る。五、練る。

六、仕上げ。

以上の様な順序を經てあの美しいリボンは出來上ります。

私達はそこを出て元の廣場で休息致しました。會社の親切なもてなしに乾いた咽喉をうるほし、美しいリボンまで戴いて有益な見學を終りました。以上

東京家政大学同窓会誌　昭和6年

裁縫と家事

昭和六年度第廿九卷
七、八月合併號

東京女子專門學校
渡邊女學校
研究會編輯

私達は六月二十三日(火曜日)雲から谷中の千代田リボン工場に行きました。先づ三組に分れて見學を致しました。私達が第一に入つた部屋は糸を並べる處で、そこの右隅の階段を登つて行きますと、右側の室に當工場の製品、リボン應用の手藝品、及び參考品が澤山ならべてありました。

今、此の工場では主に夏帽子のリボンを織つてゐるとの事でした。それ等の美しいリボンの中で、寫眞織が一番私達の目を引きました。

朱子織、片面織、斜絞織、綾織等皆私達が學校でならつてゐるものばかりなので嬉しくなつてしまひました。私達は學校で今朝一時間目と二時間目の紡織の時間にならつた破れ斜絞について質問致しましたら、そこにいらしつた技師の人がくわしく說明して下さいました。本當に學習上の參考になりました。

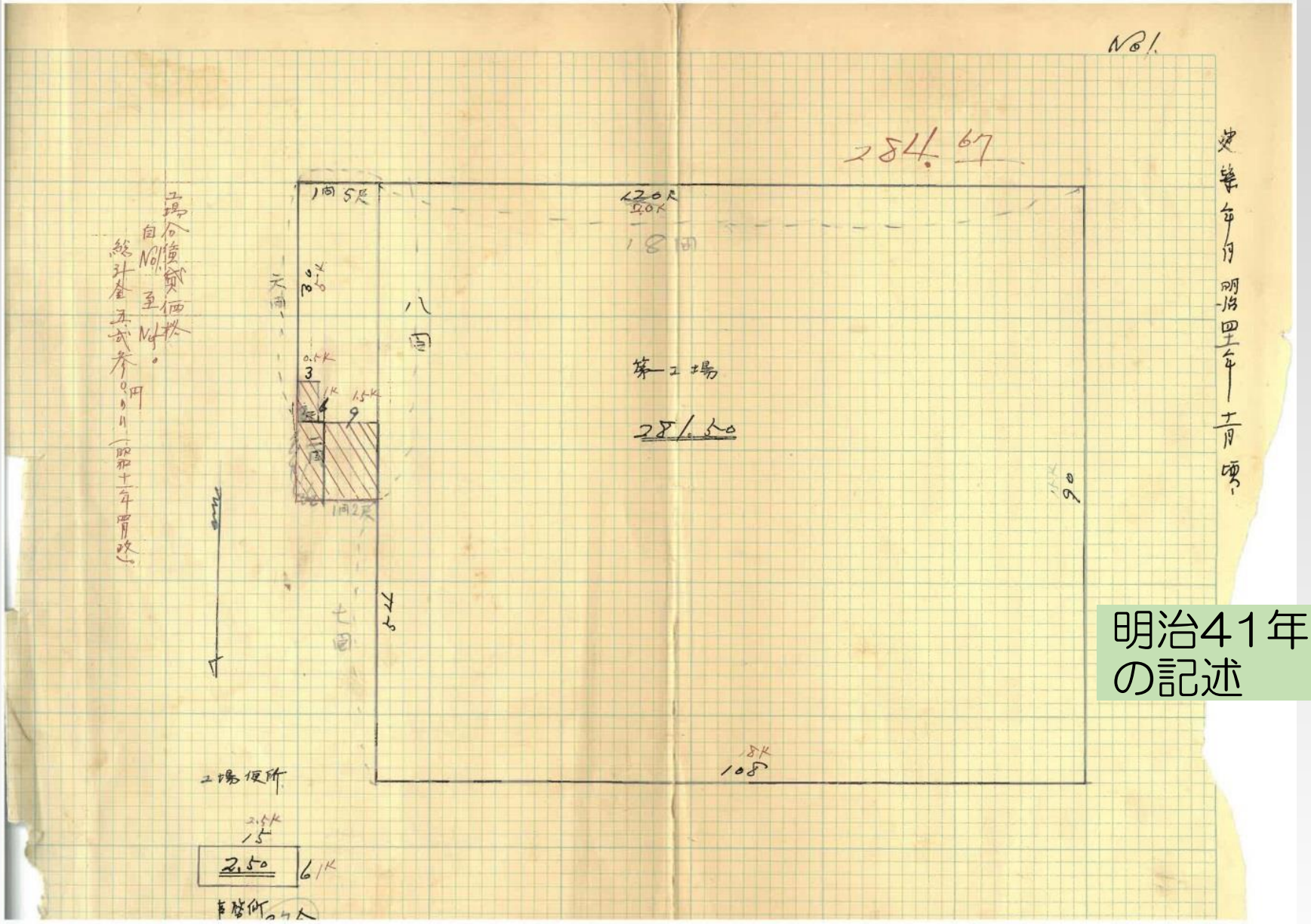
次にリボンに木目が出來るわけの說明がありました。それは簀垂等を二枚重ねると木目が見えるのと同じ樣な譯で、之を後もどりさせない爲にルーラーに八九十度の熱を與へて、之で壓迫するのださうです。

千代田リボン製作所
裁手一　高田秀子

本欄

七九

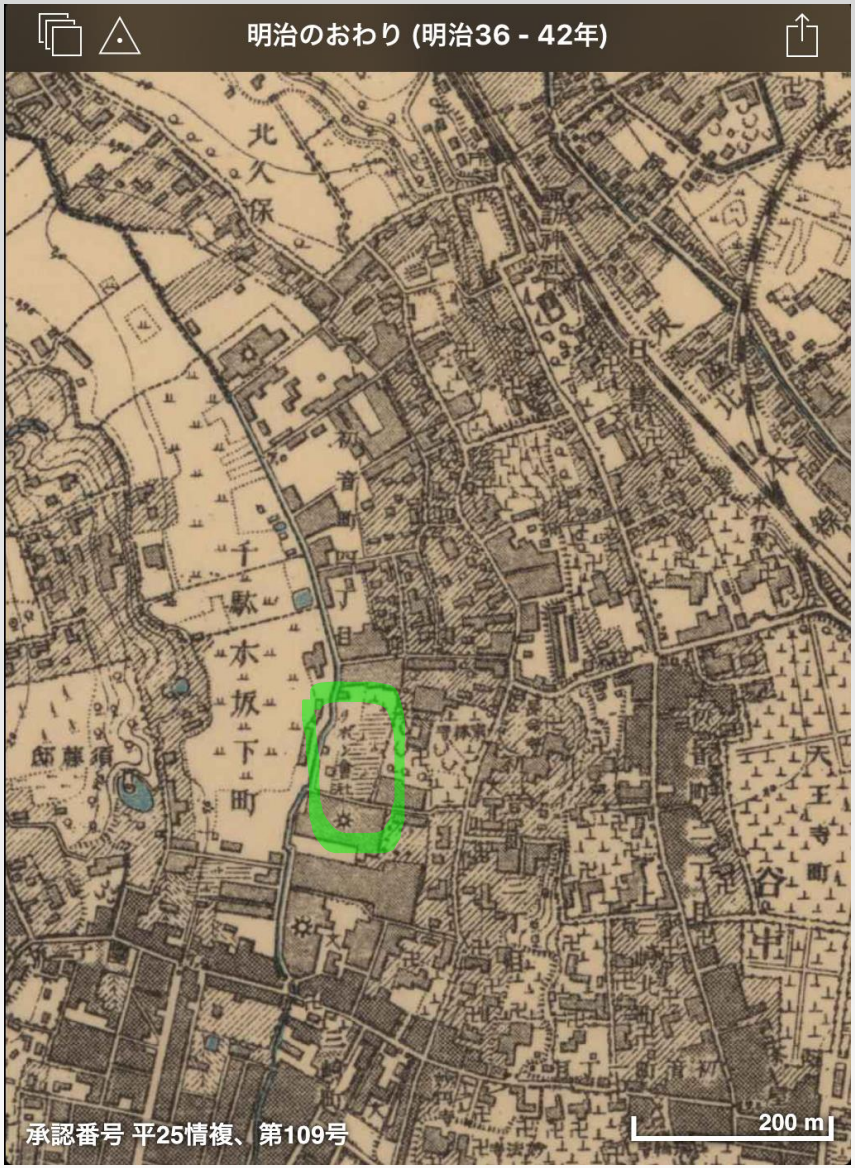
１－４　工場配置図

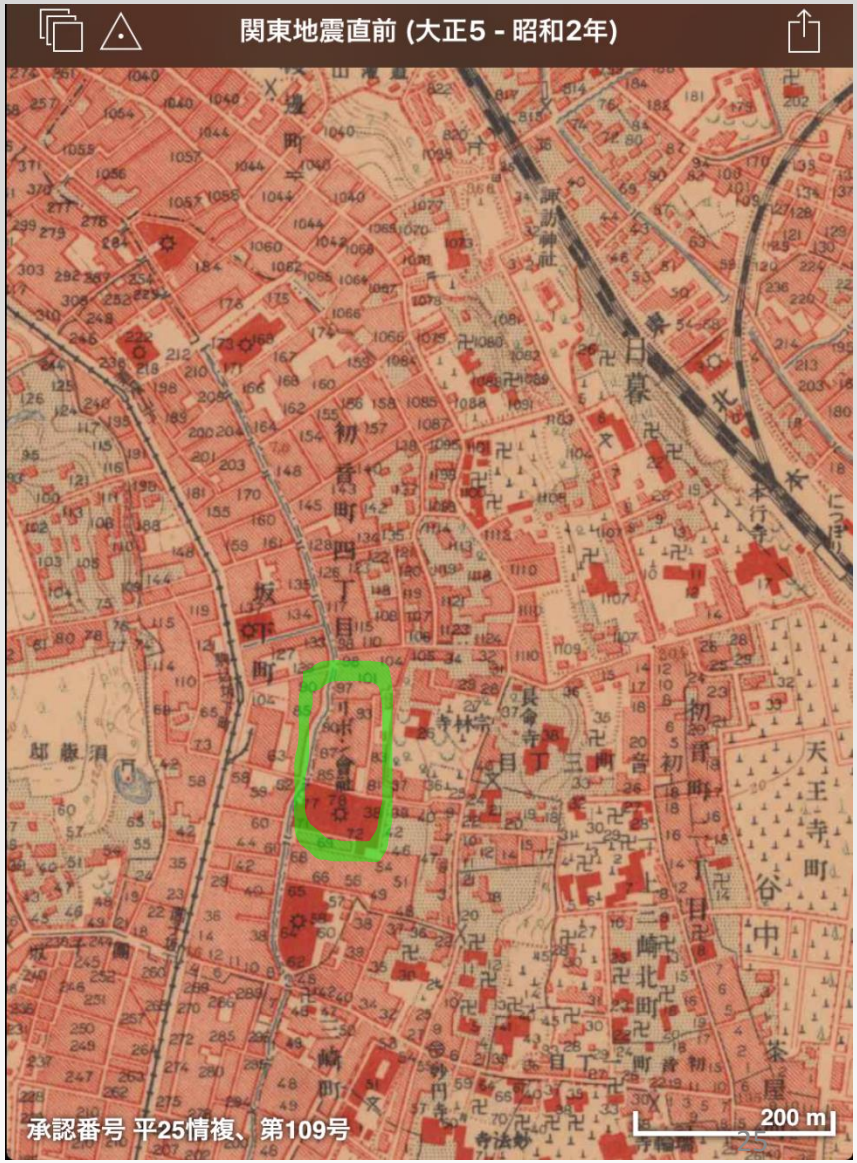


明治41年
の記述

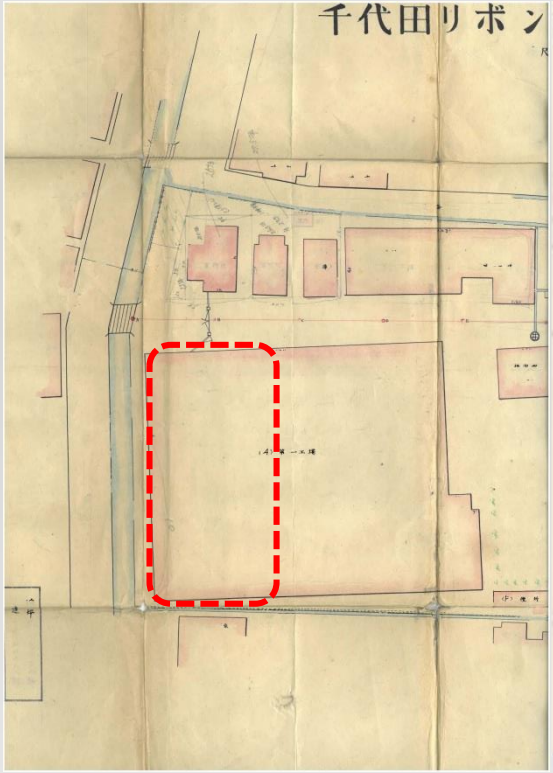
明治・大正の地図にも記載されているリボン工場

（「東京時層地図」より）

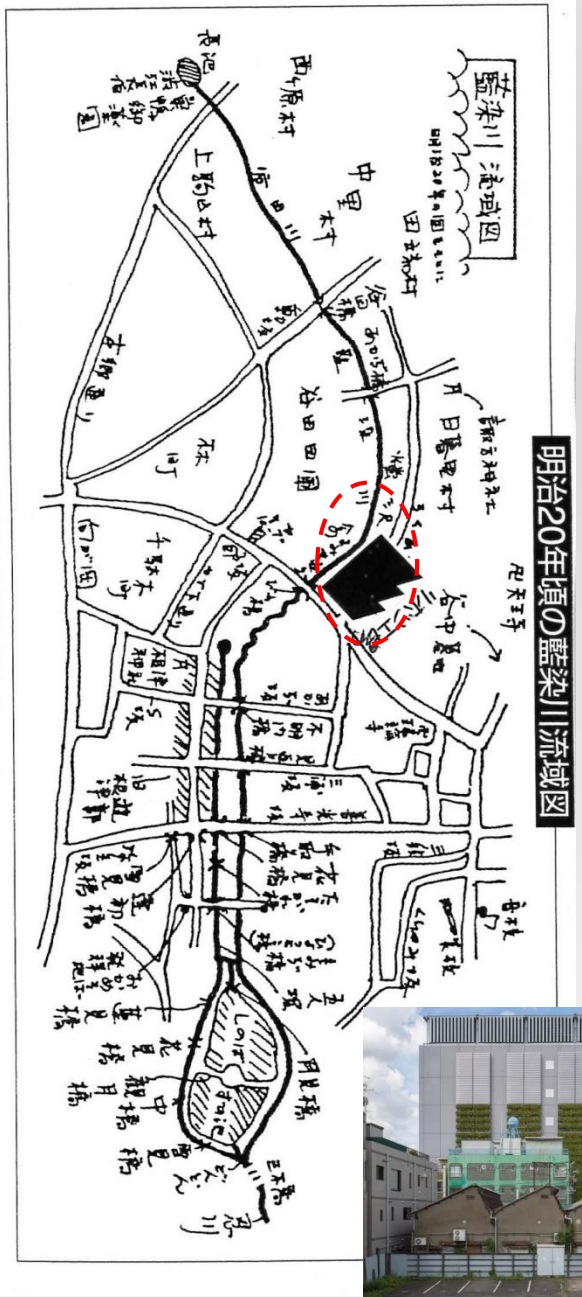




年代不明


千代田リボン

會社實測圖


藍染川流域図
明治20年頃の藍染川流域図
西ヶ原村
中里村
上野村
谷田田圃
日暮里村
千駄木町
古物通り

谷中のこぎり屋根工場 実測調査

台東区谷中の「よみせ通り」沿いに位置するこの建物は、かつて道なりに湾曲して流れていた藍染川と、この地域の繊維手工業の記憶を残す建造物として、数少ない事例となっています。当研究室では、昨年６月に現所有者のご厚意により、建物の実測調査を行いました。今回は、その成果の中から一部をご紹介いたします。

この建物は、北側からの採光を取り入れる当初の小屋組と屋根形状を残しており、明治から昭和初期に発展した「のこぎり屋根工場」の典型的な姿を現在に伝えています。特に、都心に残る事例として大変希少な例であり、よみせ通りのシンボル的存在となっています。

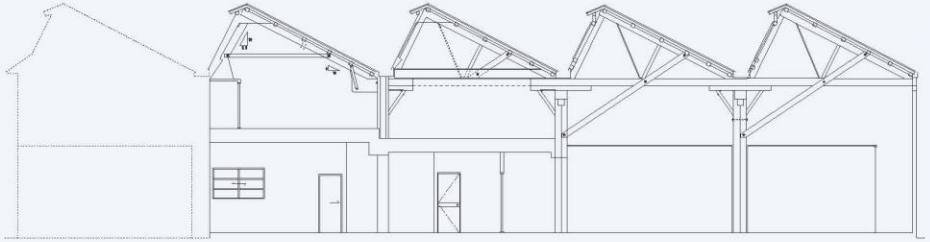
谷根千地域の貴重な近代化遺産として親しまれるこの建物が、今後も保存活用されることを期待しています。

平成 21 年 10 月吉日

東京芸術大学美術研究科大学院 文化財保存学専攻保存修復建造物研究室

○建築的特徴

- ３間 ×7 間をひとつの単位として、南北方向に５棟を並べた木造の主要構造をもつ。
- ３間 ×７間の外周には、一間ごとに柱を立て、広い工場空間を確保している。
- 北方向に、屋根の採光を設け、日中通して均一な太陽光を室内に取り入れることを考えた、「のこぎり」型の屋根をもつ。
- 建築当初の小屋組は、梁・筋違・登梁により構成され、その上に母屋を敷き、屋根をのせる。
- 小屋組は、工場として使用していた時期と、２階を設けた時期の、２回に分けて補強が行われたことが判る。
- 第１期補強：梁間方向に、柱から梁、登梁を挟み込む形で斜材 (木材) による、補強が施された。
- 第２期補強：２階を設ける際に、広い空間を確保するため、既存の梁を切断し、一段高い位置に鉄骨による新規の梁が設けられた。
- 現在は、北寄りの１棟を車庫とし、次の２棟に２階を設け、南寄り２棟に天井をはって作業場として使用している。



断面図　（縮尺１/50）

南西側から建物を見る

北東側から採光窓を見る

○小屋組の変遷

① 小屋組　斜材による補強の様子

建物の一部は、現在２階が設けられており、小屋組の様子が室内に見ることができる。小屋組には、後に斜材（木材）により補強が行われている。２階を設ける前の補強と考えられる。

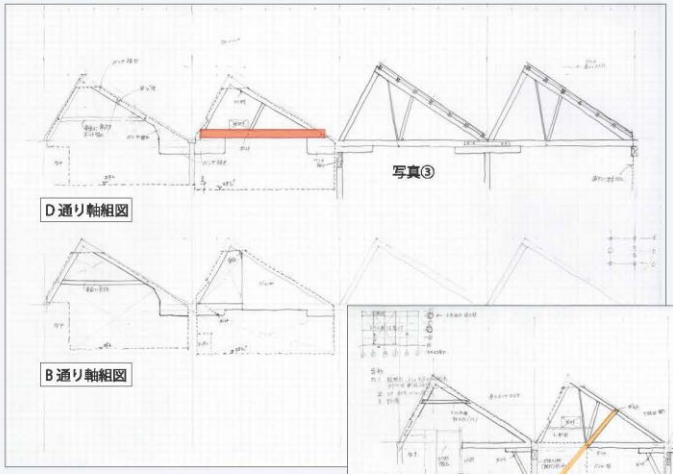
② 小屋組　鉄骨による補強の様子

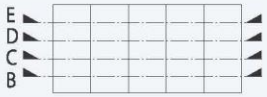
２階を広く使用するために、木造の梁を切断し、代わりに鉄骨の梁（H 鋼）が架けられている。写真中央の茶色の梁が、鉄骨による後補の部材である。

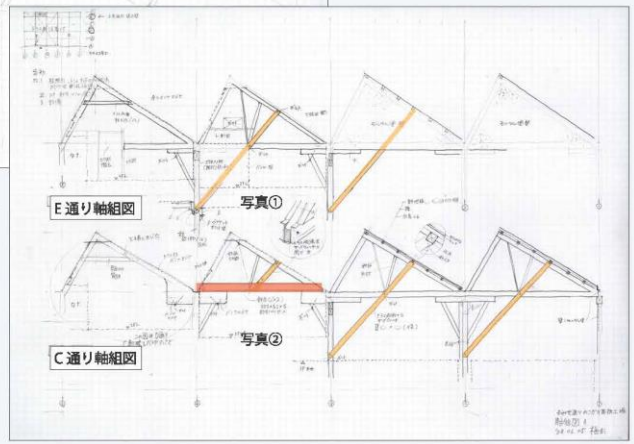
③ 天井裏の小屋組　当初の小屋組

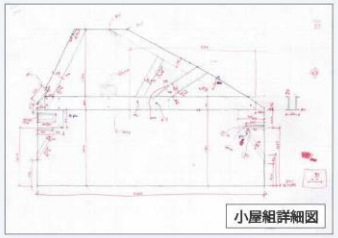
建物の一部は、１階に天井板を張っている。当初は、小屋まで吹き抜けた広い空間として使用されており、写真左側の窓から北方向の緩やかな光が、室内に差し込んでいた。

○実測野帳





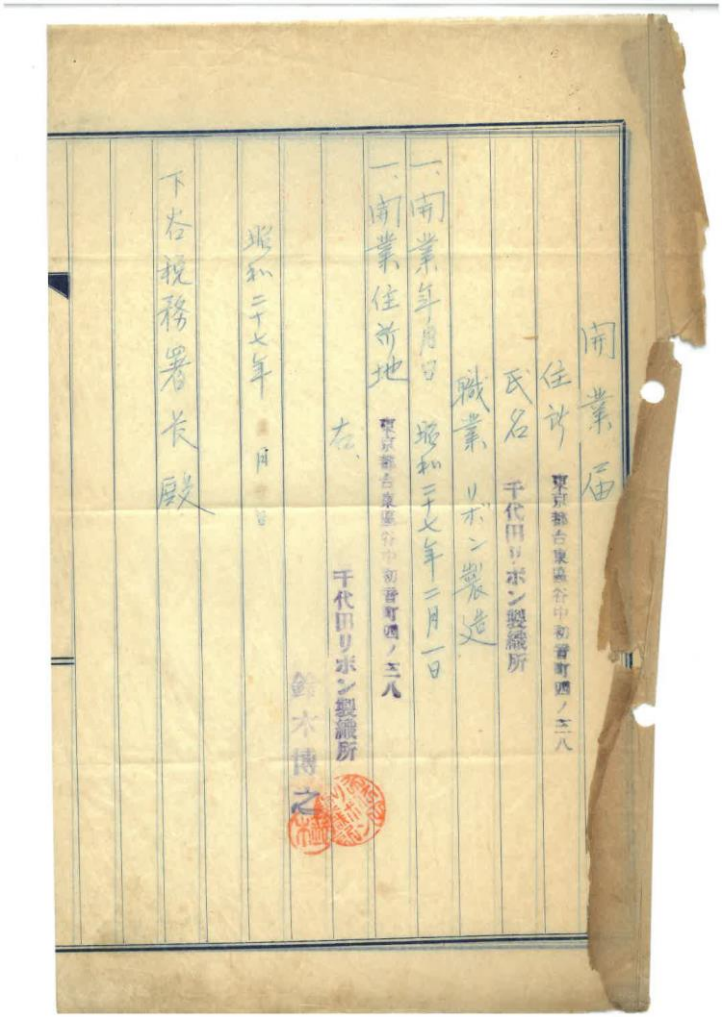




調査者
東京芸術大学美術研究科大学院文化財保存学保存修復建造物研究室　上野勝久、中村文美、内川亜紀、有村耕平、澤口和美、佐藤明生、岩川由紀
調査協力　合同会社もば建築文化研究所　梅田太一

１－５　終業時の記録

戦後
昭和27年開業～昭和44年廃業



開業届

住所　東京都台東区谷中初音町四ノ三八

氏名　千代田リボン製織所

職業　リボン製造

一、開業年月日　昭和二七年二月一日

一、開業住所地　東京都台東区谷中初音町四ノ三八

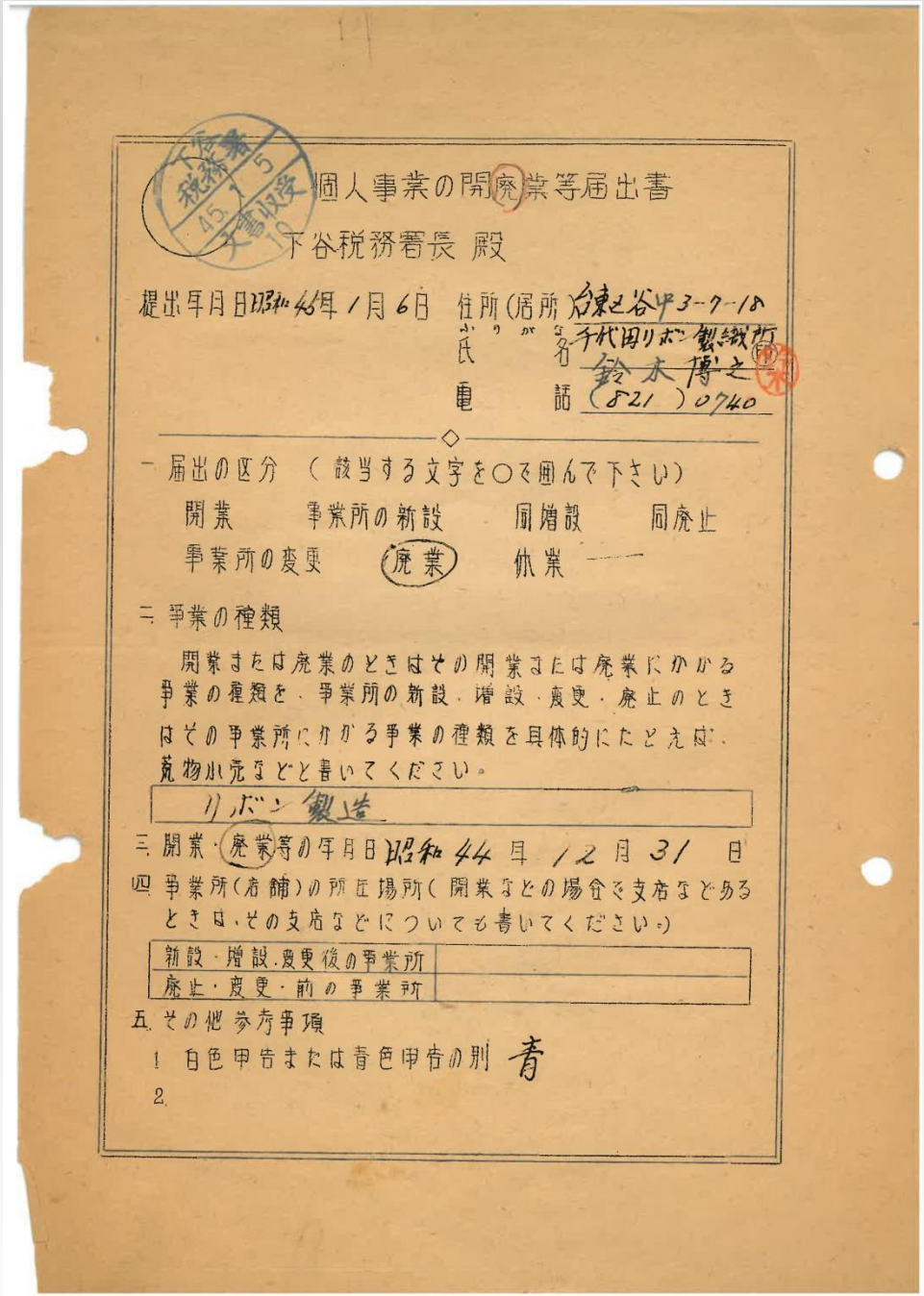
右、

千代田リボン製織所

鈴木博之

昭和二七年　月　日

下谷税務署長殿



東京都 税務署 45.1.5 文書収受

個人事業の開廃業等届出書

下谷税務署長 殿

提出年月日 昭和44年1月6日　住所（居所）台東区谷中3-7-18

氏名（ふりがな）千代田リボン製織所　鈴木博之

電話 (821) 0740

一 届出の区分（該当する文字を○で囲んで下さい）

開業　事業所の新設　同増設　同廃止

事業所の変更　（廃業）　休業

二 事業の種類

開業または廃業のときはその開業または廃業にかかる事業の種類を、事業所の新設・増設・変更・廃止のときはその事業所にかかる事業の種類を具体的にたとえば、荒物小売などと書いてください。

リボン製造

三 開業・（廃業）等の年月日 昭和44年12月31日

四 事業所（店舗）の所在場所（開業などの場合で支店などあるときは、その支店などについても書いてください。）

新設・増設・変更後の事業所	
廃止・変更・前の事業所	

五 その他参考事項

1 白色申告または青色申告の別　青

2

２．地域産業遺産の保存活動

２－１　社会一般への広報活動
２－２　大学博物館への出展
２－３　行政や地域、
　　社会への広報活動
２－４　専門職への働きかけ

２－１　社会一般への広報活動

左上；しんぶん赤旗
　　2016/10/10
右上；マミフラワー「ライフ」
　　2017/1＆2月号
左下；新潮社「考える人」
　　2017年春号

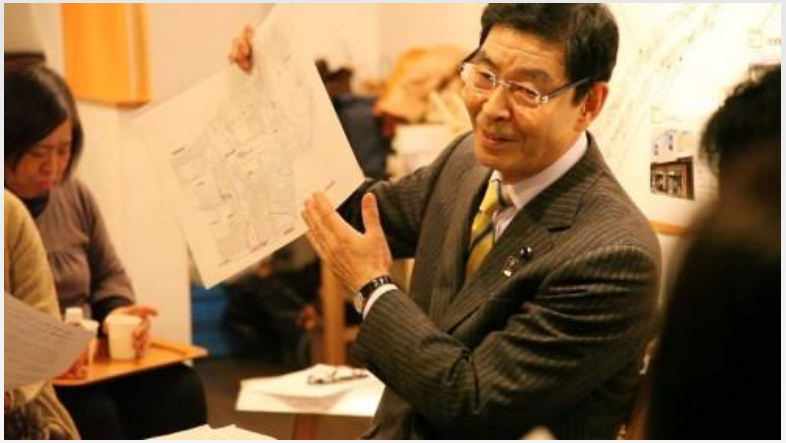
２－２　大学博物館への出展

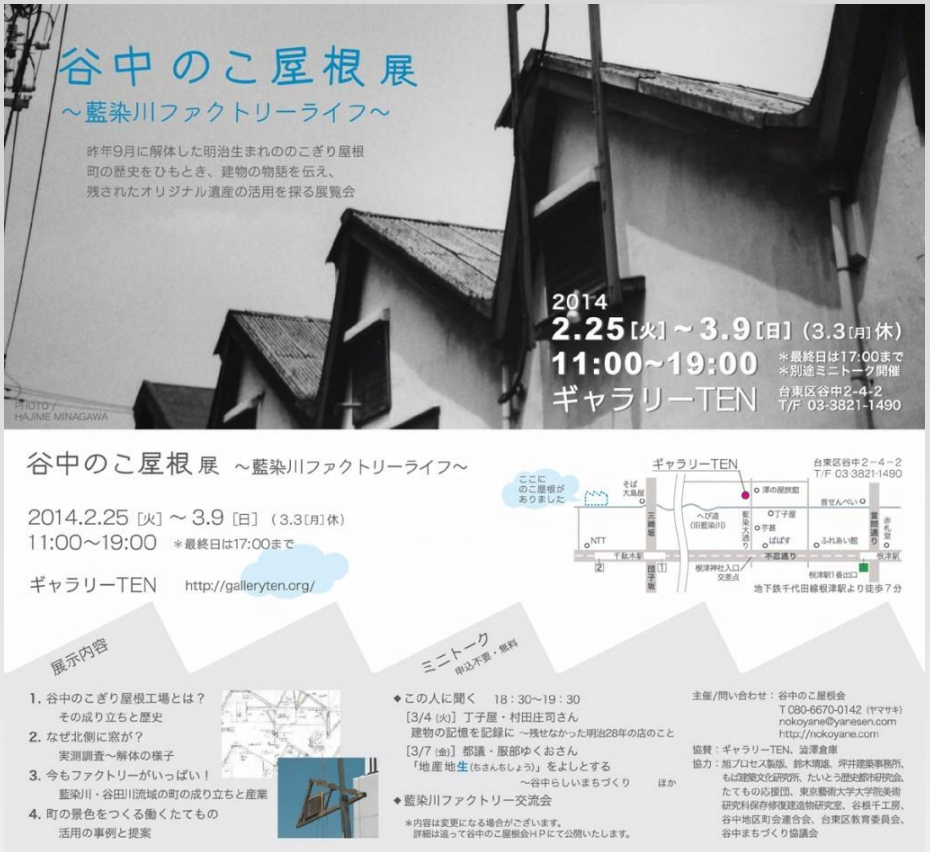
東京家政大学博物館
特別展
2017年秋

２－３　行政や地域、社会への広報活動

1回目　谷中のこ屋根展
～藍染川ファクトリーライフ～
部材のみの展覧会

当時区議現台東区長
服部いくお氏熱く
「保存の重要性」を
語る





高山医療機器製作
所　高山社長

2回目　谷中のこ屋根展
直前にリボン見本帳などの譲渡を受ける

「谷中の織りもの　この日だけの特別公開！

～100年前の資料を読み解く」

解説/玉川寛治さん（前産業考古学会会長）

2014年 11/25(火)19:00～21:00

会場：HAGISO　台東区谷中 3-10-25　岡倉天心記念公園前　問合せ080－6670－0142（やまさき）

参加：ワンドリンク 500 円（追加も 500 円で）

今回、千代田リボン製織所から譲り受けた 100 年以上前の織機・染色にまつわる英語・ドイツ語・フランス語などの美しい洋書と、谷中で織られていたリボンの見本帳やヨーロッパから持ち帰った小巾織り物の実物、創業者・渡辺四郎氏が筆記した講義ノート…これらの資料を公開します。どうぞお楽しみに。

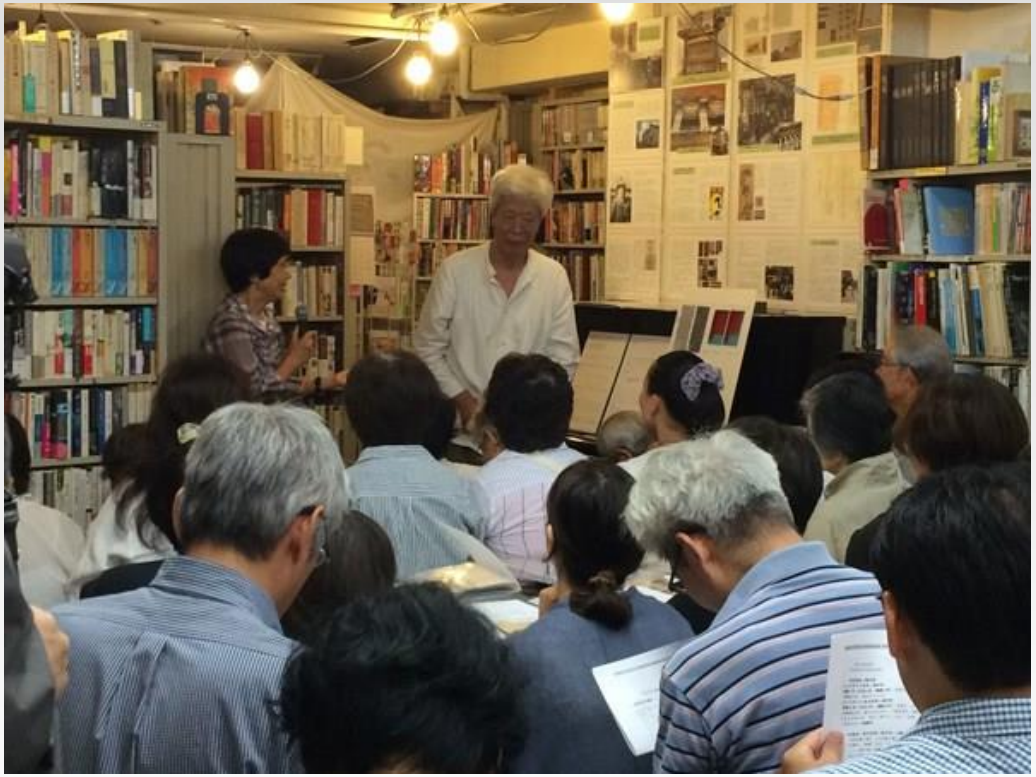
＊今回解説をお願いした玉川さんは、産業考古学会において、織機に関して右にでるものがないと言われています。著書に『製糸工女と富国強兵の時代一生糸が支えた日本資本主義』(2003)、『資本論』と産業革命の時代 マルクスの見たイギリス資本主義』(1999)など。

3回目
谷中とリボンとある男展
リボン見本帳・書籍中心

部材の保存から3年、そして資料の譲渡から2年。ようやく全貌が明らかになりつつある。19世紀から20世にかけて織られた膨大なリボンと、製糸・製織・染色の資料は、個人としては国内唯一・最大の渡辺四郎コレクション。この町の記録を、町の人に見てもらう。

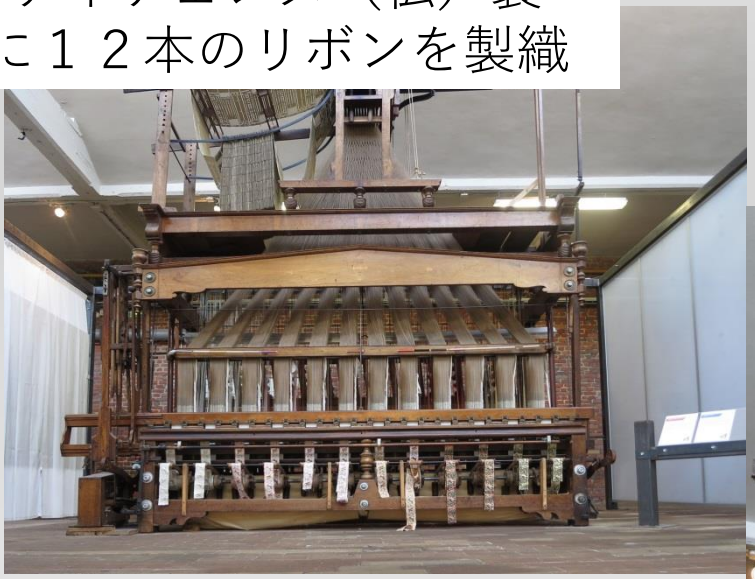
会場風景

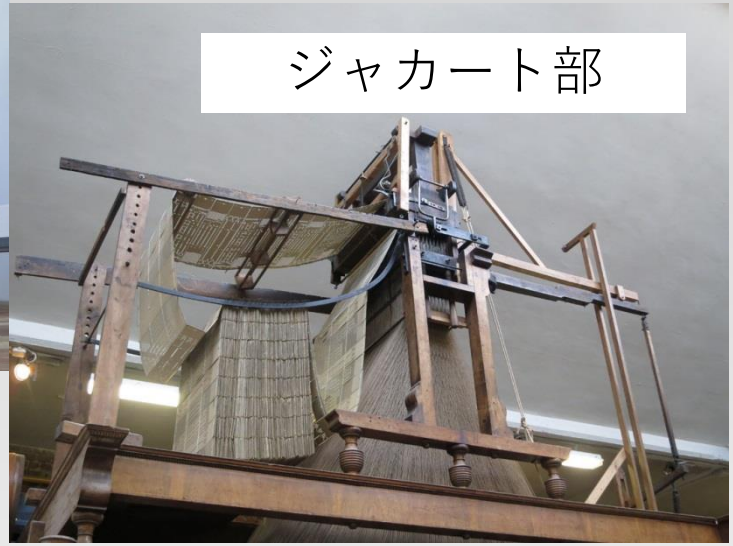
学会誌も販売



会場風景

木製リボン織機(1884年)
サンティチェンヌ（仏）製
一度に１２本のリボンを製織





フランス・ルーベ博物館（写真提供石田正治氏）

２－４　専門職への働きかけ

新井正直さんと

群馬県繊維工業試験場

3．これまでの到達点

東京新聞　2018年（平成30年）1月30日（火曜日）　したまち　地域の情報　18

したまち

心のふるさと　祈りのお山　高尾山薬王院

都内の天気

	きょう	あす
都区部		
府中		
八王子		

きょうの予想（区内）

のこぎり屋根工場は「国産リボン」発祥の地

ギザギザした形から「のこぎり屋根工場」と呼ばれ、2013年に解体された台東区谷中の元工場は、日本初の機械式西洋リボン工場だった。地元有志が調査で明らかにし29日、「国産リボン発祥の地」のプレートを工場跡に設置した。（原尚子）

解体される前の「のこぎり屋根工場」

谷中・有志の会調査で明らかに　跡地にプレート設置

「谷根千地区」はかつて織物産業で栄えた。地元有志でつくる「谷中のこ屋根会」によると、「よみせ通り」沿いにあった「のこぎり屋根工場」は一八九四年、白木屋呉服店支配人の岩橋謹次郎が「岩橋リボン製織所」として建てた。経営者が代わりながらもリボン製造は続き、一九六六年に「千代田リボン製織所」の時に生産を終えた。

のこぎり屋根は十九世紀前半、産業革命時代のイギリスで誕生し、屋根の北側だけをガラスにすることで、直射日光ではない柔らかな光を取り込める。繊細な織りや糸の色を確認するために最適で、日本でも各地で導入された。

谷中の工場は、印刷会社の事務所に使われた後に解体され、マンションと駐車場になっている。谷中のこ屋根会が建築部材の一部や関係者から譲り受けたリボンの見本帳を保存し、谷中の近代遺産として活用できないかと模索している。

観光客や地元の人が行き交う中で行われたプレートの除幕式。同会の山崎範子さんは「のこぎり屋根を広く知ってもらう手段ができた。ここを通るたびに思い出してもらえれば」。一九六〇年代から谷中にすし店を構え、街づくりの先頭に立ってきた「谷中の暮らしと街並みを守る会」の野池幸三さんは「プレートを通して昔のことを学んでもらえれば、街歩きも楽しくなると思う」と話した。

「国産リボン発祥の地」プレート（右下）を除幕した、山崎さん（左から2人目）と野池さん（同3人目）＝台東区で

国産リボン発祥の地（千代田リボン製織所跡）

北側天窓から安定した自然光が入るのこぎり屋根の工場。それまで紳士の帽子や淑女の髪を飾るリボンは輸入されていました。

1894年（明治27）、藍染川（谷田川）のほとり、下谷区谷中初音町4丁目38番地（現・谷中3-7）に、岩橋リボン製織所（創業者岩橋謹次郎）が設立、日本で初めて西洋式リボンが生産されました。やがて当初から技術を支えた渡辺四郎に、さらに鈴木哲に引き継がれ、千代田リボン製織所として昭和40年代まで操業、その後は印刷所として使われました。近代日本のものづくりの原点であり、地域に愛されたのこぎり屋根工場は、2013年9月に解体されましたが、建築部材の一部と、工場跡から発見されたリボンの見本帳を含む貴重な文献資料は、明治の産業を知る宝として残されています。

2018年1月吉日　　谷中のこ屋根会

2018・1・29プレート除幕式

産業行程を目的に、あるいはそれにより作られた記録、人為的工作物、地質的層序、建造物、人間の居住地、自然景観、都市景観など、有形、無形のすべての証拠を研究する学問

（国際産業遺産保存委員会（TICCIH）の定義）

アマチュアの役割（p191）

1960年～イギリス
地域への愛着からの官民など相互連携

アマチュアとは、専門家と一般の人々の中間、両者の触媒の役割

サンテチエンヌ市エンブレムリボン

武器

鉱山

リボン織機

蒸気機関

大統領名
1898年（明治31年）

幅235×長さ630ｍｍ

産業考古学会に深謝いたします！

写真撮影;縣章彦